**「毒殺」**

概要

アンダーソン氏が毒殺された。容疑者のボストン氏が残した決定的な証拠（毒の入っていた万年筆型注射器）を探し出して、彼を犯人と特定する。

ハンドアウト

依頼：警察　先日、銀行家のアンダーソン氏が毒殺された。毒は、遺体に残った小さな針で刺されたような跡から入ったと思われる。容疑者は商売敵のボストン氏に絞られている。しかし、証拠が十分でなく、逮捕に踏み切れないでいる。決定的な証拠を見つけ出してほしい。

・初期証拠カード「アンダーソン氏の死」に対して

靴磨き　「いやあ、特に知っていることはありませんね」

商人　　「ボストン氏ですか？事件の少し前に、私の店で変わったものを買いました。とある医者が遊びで作らせた一品物の注射器で、一見ただの万年筆なのですが、注射器が仕込まれてましてね。彼は医者でもありませんし、コレクターでもないのに、何に使うつもりなんでしょうかね？」

**証拠カード「ボストン氏の買い物」を渡して下さい。**

貴族　　「ああ、あの二人か。仲が悪いとは聞いていたが、まさかあんなことになるとは……いや、まだ犯人と決まったわけではなかったな。忘れてくれ」

マスター「ボストン氏は、商人さんの店のお得意様らしいね」

記者　　「あの事件ですか。特に情報は掴んでませんねえ」

学者　　「あの事件か。なかなか興味深い毒を使ったようだね。なに、私は毒には少々詳しいのでね。警察から相談を受けたこともあるほどだよ」

・証拠カード「ボストン氏の買い物」に対して

靴磨き　「ああ、それはこの前拾った万年筆じゃないかと。ほら、これですよ。目立たないところに落ちていたのを、変わった品物だと思って拾ったんですが、落とし主は現れないし、売ろうにも珍しいものだったのでどこも買ってくれなくてね」

**証拠カード「落ちていた万年筆」を渡して下さい。**

商人　　「あれ以上のことは何も知りませんよ」

残り　　「まあ、たしかに変な話だね。そう言えば、この前靴磨きが変なものを拾ったとか言っていたな」

・証拠カード「落ちていた万年筆」に対して

学者　　「ふむ……この中の注射器には、毒が入っていた痕跡があるね。比較的最近、具体的には事件のあった辺りまで入っていたようだよ。しかもこれは犯行に使われたのと同じ毒だ」

**真相カード「決定的証拠」を渡して下さい。**

商人　　「ああ、これは間違いなくボストン氏が買っていったものですね」

その他　学者ならたぶんそこに毒が入っていないか確かめてくれるだろう。